

「キリストありきの自分がいいね！」ピリピ3:7-9

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。

3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損とと思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

○序論

2025年。今週17日に、あの1995年に発生した阪神淡路大震災から、30年を迎えます。

あの御影神愛キリスト教会がその震災の年の12月に発行した「震われない国—95.1.17 大震災の証言—」という証し集があります。

そのはじめに、当時の主任牧師杉本俊輔先生がこう記しています。

『天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。』（マタイ24章35節）…

…その時、大破した教会に来た兄弟達が見たものは、荒れた会堂の姿と同時に、上記の、神の言葉は永遠に変わらないことと、信仰に立つことの素晴らしさでした。私達は、試練に遭遇しましたが、御言葉に立って負けることを止めました。

『いま、私達御影神愛キリスト教会は、多くのものを失いましたが決して全てを失ったわけではありません。いや、多くの素晴らしいものを主から与えていただきました。私達には、主にある愛する兄弟姉妹のあることをあらためて知りました。祈りの援者のあることを、そして兄弟を通して主の愛を知り、人の心の暖かい交わりと励ましをいただくことができました。』

その苛烈を極める被災経験の真ただ中で、「御言葉に立つことで、負けることを止めた」とき、与えられている多くの神由来の祝福に気づき、また受け取ることができたと証しているのです。

今日お読みしたピリピの手紙は、牢獄につながれていたパウロの手紙です。

この手紙は別名「喜びの手紙」とも言われます。

3:1 最後に、わたしの兄弟たちよ。主にあって喜びなさい。さきに書いたのと同じことをここで繰り返すが、それは、わたしには煩わしいことではなく、あなたがたには安全なことになる。

そうして、なぜそうなのかをパウロの経験を通して聞くようにされているのです。

○本論

I. レジリエントな人となる

神戸市が震災後に築き上げてきた都市の姿。レジリエントな都市と。

その意味は、困難な状況を乗り越える柔軟性・回復力を持った都市となったということだそうです。なるほどなと思います。

このレジリエントという言葉には心理学、組織論、教育など、さまざまな分野で用いられ、困難な状況に適応して乗り越える力や回復力を指します。

▶レジリエントな人や組織の特徴

- ・困難な状況に遭遇しても、すぐに立ち直ることができる
- ・ストレスにうまく対処できたり、感情をコントロールできたりする
- ・楽観的になったり、柔軟な思考をもてたりする
- ・自己肯定感が高い
- ・危機的な状況下で、迅速に状況を判断し効果的な対応ができる

▶レジリエントな人や組織になるには、次のような方法が有効。

- ・目標を立て行動する
- ・マイナスの感情に向き合う
- ・客観的視点をもつ
- ・他者との関わりを大切にする
- ・心身ともに健康的になる生活習慣を心掛ける

これは、わたしたち一人一人に、そしてこの教会にも適用できる内容です。

わたしたちは、ここで欠けてはならない重要なフレーズを加えなければなりません。

3:1 最後に、わたしの兄弟たちよ。”主にあって”喜びなさい。

何よりも、「主にあって」「主イエス・キリストにあって」ということです。

そう知った上で、今日、何よりも皆さんに伝えたい、一つのこと。

それは、あなたの人生で「キリストと共に生きる生き方がある」ということです。表現を変えるなら、「あなたはキリスト共に生きる生き方ができる」ということです。

今日お読みしたパウロもまた、このキリストと共に生きることを一心に求めた人でした。

:8 「…それは、わたしがキリストを得るためであり、」

:9 「…キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。」

そのために…

Ⅱ. キリストを知ることが大切です

かつてキリスト教会の迫害の先頭に立つ人であったパウロ・

そんな彼もイエス・キリストとの出会いによって、逆にキリスト教の伝道者へと変えられた、それが彼が経験した人生のミラクル（奇跡）です。

彼の人生観、そして価値観、その生き方は明らかに変えられていました。

それまで誇りとしてきた自分の学歴・立場、家柄、経験など、普通なら自慢できるブランド的なすべてのものを「キリストのゆえに損」と告白しています。

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。

パウロはそこでとどまらずにこうも主張するのです。

3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。

「しかも」とか「更に進んで」というパウロは、「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値」を強調しています。

今知っているというところ、そこからさらに進んで、そのイエス様ご自身を経験することのすばらしさ、その真実な愛と思いの深さについて知ることが、この世のどんな宝にまさる喜びだ、と強調し。もっとももっとも知りたいと、パウロは心から願っているのです。

ここにパウロが経験した価値観の大転換があります。その眼差しの先にはもっとも重要なものに注がれているのです。そうしてこう語ります。

:8 「…それは、わたしがキリストを得るためであり、」

:9 「…キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。」

Ⅲ. 恵みをしっかり手にして生きる

「『わたしの主』キリスト・イエス」と語る、パウロにとって、大切と強調するのは、イエスさまと自分の関係、つながりそのものでした。

そうしてゆだねられているすべてものを「恵み」として語っているのです。

パウロはその獄中での生活、また苦難をも恵みとして受けとめ、そしてこの手紙に書き綴っています。

「恵み」とは、どんな時や状況においても、神さまから与えられているものです。

すなわち、それは、「神さまとの関係、イエス様との関係が、いつも与えられている」ということです。

ですから、パウロは同じピリピ1:29に

1:29 あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じるだけでなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。

あの震災の中での杉本満子先生の証の結びにこうありました。

第1コリント10章13節

「あなたがたの会った試練で世の常でないものは無い。神は真実である。…」事を示していただきました。

そして今は、『試練に会ったことは私にとって良いことです。これによって律法を学び得ました。』詩篇119篇71節がと言えることを感謝しています。

その被災経験を通して、イエスさまを主と呼べる幸いを経験しているありさまです。

それはまさに、自分の人生で「キリストと共に生きる生き方がある」ということ、「キリスト共に生きる生き方ができる」ということを経験したと言えるでしょう。

これは恵みです。だからわたしたちはここでも主にあって喜ぶ者とされているのです。

10年前、あの御影で行われた成人者祝福式後の聖会でわたしはこうお話ししました。

…皆さんのご両親や周囲の方々は、ショッキングな事件や災害を見聞きする、また体験する中で、皆さんの誕生と成長を見て、慰めと励ましを受け取ってきたのです。神さまはこのような時代に、私たちに新しい命をゆだね、そしてこの命を育む使命を私たちに与えてくださったのだと知ったのです。

皆さんのご両親ばかりではなく、多くの方が、この困難な時代に生まれ成長していく皆さんを見て、神さまの恵みを知った。神さまが共におられることを覚えていたことを知っていて下さい。

そのうえで、二十歳になった皆さん、そして青年たちに、今日の御言葉を覚えていただきたい。「更に進んで」キリスト・イエスを体験してもらいたい。もっと深く、もっと豊かに知ってもらいたいと願います。そうして「キリスト共に生きる」ことを大切にしていきたい。…そうお話ししました。

最後に)

今日、お読みしたピリピ人への手紙は、し烈な迫害や長く続く牢獄の中でも決して奪われない確信を「望み」とも訳しています。

3:8-9（新改訳）…キリストを得、また、キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

先ほど紹介した証集の中に、当時御影の伝道師夫人であった趙善江先生のお証がありました。臨月のおなかを抱えて被災し、そのおなかを抱えてなお、余震の続く中での不安な時間。そんな時ご主人の姜先生がこう言ったそうです。

「チュゴド ハヌル ナラニカ」日本語に訳すと、「死んでも神の国だから。」「あっそうだ。私たちは、もしこのまま死んでも神の国に行くんだから。」そう思うと肩の力がぬけて楽な気持ちになりました。・・・と。

わたしたちは、今後どんな災害や争いに巻き込まれてもなお、「キリスト共に生きる生き方ができます」。そうして約束された恵みを思い起こすことができるのです。

この証集、「震われない国」そこには聖書が示す希望の表現だと知ってください。

来るべき神の御国に入れられる確かな約束にあることを証しするものです。

ヘブル12:28 このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。

こうして、わたしたちはキリストありきの人生で、自分に「いいね!」ということができるのです。